主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想例【国語／国語総合】②

１．対象（実施を想定する学校・生徒の実態の概要）

普・商併置校である。対象クラスは普通科で、半数が４年制大学への進学を希望している。授業に対しては概ね前向きだが、古典には興味を示さない生徒がやや多い。「Ｃ読むこと」については、現代文教材の『羅生門』で「情景描写や表現に即して登場人物の心情変化を読み味わう」（指導事項ウ）を指導した。古文教材では「児のそら寝」「絵仏師良秀」を取り上げ、「文章の内容を叙述に即して的確に読み取る」（指導事項イ）を指導した。本単元では、指導事項エを扱い、中学校で既習の教材も用いながら、文章の書かれ方を俯瞰的にとらえる力を身に付けさせたい。また、文法事項の習得に偏ることなく、伝統文化への興味・関心を育てることを意識して指導したい。

２．単元名

「『奥の細道』の内容や表現の仕方について解説しよう」（全４時間）

教材：「平泉」（松尾芭蕉『奥の細道』）（『高等学校　国語総合』第一学習社）

３．単元で育成すべき資質・能力の三つの柱につながる単元の評価規準

①知識・技能	○材料Ａから『奥の細道』の基本的事項を確認できている。 ○材料Ｂによって、芭蕉が書いた「平泉」にまつわる古典文化の背景を理解している。
②思考・判断・表現	【読むこと】（文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりする） ○芭蕉がその場で目にしたものと、過去（奥州藤原氏の盛衰や義経の最期）への思いを的確にとらえ、プレゼン案や150字の文章にまとめている。 ・材料Ｂを基にして、芭蕉が流した涙を考察している。 ・「平泉」に材料Ｃが引用された効果を考察している。 ・「平泉」の場面における現在と過去の時間の隔たりが表現されている。
③主体的に学習に取り組む態度	○材料Ａ～Ｃのどの部分を活用したのか、なぜその部分を活用したのかを、次の学習過程で説明しようとしている。 ・材料Ａ～Ｃを踏まえて、自分の案や他者の案を適切に取捨選択しながら、全体発表用のプレゼン作成に関わる。

４．本時の目標

（略）

５．授業展開【　本時　・　単元　】

解決したい課題や問い
芭蕉は平泉の景色を前に、何に思いを馳せてこの紀行文を書いたのだろうか？

考えるための材料Ａ	**考えるための材料Ｂ**	**考えるための材料Ｃ**
『奥の細道』、俳句に関する資料	「義経の最期」（『義経記』巻八）（現代語訳付き）	杜甫「春望」（中学校で既習）
想定される活動	**想定される活動**	**想定される活動**
生徒は、『奥の細道』の概要や、俳句を含む紀行文であるという特徴を把握するとともに、切れ字や季語などの、俳句の基本的知識を持つ。	生徒は、奥州藤原氏及び義経の最期について資料から読み取り、「平泉」中の「義臣」の意味を理解するとともに、芭蕉が涙を流している理由を考察する。	生徒は、中学校で学んだ「春望」の知識に基づいて、芭蕉が現実に目にした風景と、時の隔たりを経て芭蕉の心内に広がった風景とを、「春望」を介して立体的にとらえ、引用された効果を考察する。
既習の材料も含むためジグソー活動は行わず、全員が同じ資料を持って考えを広げていく。		

対話と思考（対話を通した協働的な問題解決のプロセス）

・材料Ａ～Ｃによって得た様々な視点に基づき、課題解決に向けた着眼点をグループで整理する。

▸『奥の細道』は旅をしながらその土地で俳句を詠んだ紀行文だね。▸芭蕉が実際に見ているものは金鶏山や北上川や田野なんだよね。▸でも「大門の跡」とか「泰衡が旧跡」とか、今ここにはないものも芭蕉には見えているんじゃないかな。▸「義臣すぐつてこの城にこもり・・・」って言ってるけど、誰のことなのかなあ。▸ああ、「義臣」ってそういう意味だったのか。芭蕉はなぜ涙を流しているのかな？▸『義経記』では、弁慶や兼房が義経とともにここで死んでいるようだね。▸だから芭蕉は「つはものどもが夢の跡」って詠んだんだね。▸でも杜甫の『春望』の詩と少し言葉が違うんだけど、心情としては同じなのかな。▸最初に北上川なんかの雄大な姿に触れているのは、自然は悠久ということを言っているじゃないかな。▸そうだね、自然は変わらないけど、人間ははかないっていうことだね。▸え、じゃあここで「春望」を思い出しているのはなぜかな？▸目の前の風景と重なったんじゃないの？▸現実と心の中に浮かぶ風景が重なって、時の隔たりが埋まったってことだ。▸ああ、それが詠嘆の「や」になるんだね。

・課題に対して、考えを深めた内容をプレゼンの形式で個々のワークシートにまとめる。
・グループ内でプレゼン案を発表する。
・全体発表用のプレゼンをパワーポイントでまとめる。
（課題に対する自分の考えを持つようになる。他者の意見など多様な見方や考え方を比較・統合して考えた上で、その内容を適切かつ的確に表現し、根拠をもって説明する。）
・全体で発表する。
・案を修正する。振り返りを行う。
（他者の考えに触れながら、個人の考えが深まったり、広がったりする。多様な見方や考え方を比較・統合することで、それぞれ自分の考えがさらに確かなものになるよう、最後に同じ問いについて個人で150字程度の文章にまとめる。）

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

〔150字程度の文章〕

芭蕉は、実際に目にしている景色から平泉の歴史的な出来事に思いを馳せている。まさにこの土地で不遇の最期を遂げた源義経やその一党の悲劇に、旅先での自分の姿を重ねた。またそうした栄枯盛衰とは無関係に自然の変わらない勢いを感じ、その対比を杜甫「春望」になぞらえながら、俳句を含んだ紀行文に書いた。（144字）